

会議録(要旨)

会議名	令和4年度当事者会 6月定例会	文責	障がい福祉室
日時	令和4年6月16日 午後1時30分～3時30分	場所	勤労者会館 大研修室1

当事者会の運営について

1 障がい福祉室から説明

- ・今年度の当事者会開催日程を説明。
- ・今年度の自立支援協議会内における各会議の開催スケジュールを説明。
- ・委員同士の連絡網について説明。連絡先は了承の得られた委員に限定していることを補足。

2 当事者会の役割について

【各委員からの意見や思い】

- ・腎臓が悪くなり、8年前から人工透析を行っている。人工透析者は外見では障がい者と分らない。ヘルプマークを付けていても、電車などで席を譲られたことはない。
- ・これまでボランティア活動等には全く興味がなかったが、病をきっかけに残りの人生は人を助ける活動ができないかと思い、病院で患者会を立ち上げた。
- ・現在は大腎会(大阪腎臓患者協議会)に理事として参加している。会員は4万人、患者は34万人となっている。患者の平均年齢が令和4年6月には75歳を超えると予想されている。要因としては医療が進歩して、薬物療法によって透析にならずに済んでいることが挙げられる。
- ・2016年に小脳出血で脳梗塞を発症した。それまでは普通のサラリーマンだったので、障がいというものとは関係なく生活しており、知識もなかった。
- ・自身の経験を機に普通のサラリーマンの方々にも障がいについて少しでも理解してもらえるようにしていきたい。
- ・初めは介護保険制度を利用していたが、高次脳機能障害と診断されたため、大阪府障がい者自立相談支援センターに2年間入所していた。
- ・介護保険と障がい福祉サービスの2つの制度を利用していたが、法律の内容が難しく、今でも分からないことがある。障がい者でも理解しやすい仕組み作りや説明を心掛けてほしい。また、障がい者自身も積極的に制度について理解していく必要があると感じている。
- ・視覚障害福祉会での活動を通して、鍼灸の資格の問題について行政との話し合いを続けてきて、問題については100%とまでは言わないが、概ね解決できている。
- ・今、問題になっているのは交通ルールや車の数が多くなってきていることだ。
- ・障がい福祉についての問題は、読み書きができないことについて差別があり、困っている人達がいる。
- ・高校生まで地域で生活してきた。地域の友達がいることは、地域に住んでいることが実感できて大事なことだと感じている。
- ・現在、一人暮らしをしており、朝夕に居宅ヘルパーを利用したり、外出時にはガイドヘルパーを利用したりしている。行動的な性格なため、よく外出をすることがあり、もっとガイドヘルパーを利用できたらいいなと思っている。
- ・また、周りにも一人暮らしを希望する障がい者が多くおり、そういった障がい者が一人暮らしをできるようになれば良いと思っている。
- ・阪急淡路駅のバリアフリートイレ設置の経緯について説明。(新聞記事参照)
- ・阪急淡路駅は古くバリアフリー化が遅れている駅だった。当時、駅員6人がかりで車いすごと運んでもらったが、フラフラしてとても怖い思いをした。今後、こういったことが起きてはいけないと思い、約3年がかりで今回のバリアフリートイレを設置することができた。
- ・阪急バスにシニアカーでの乗車が可能となった。(新聞記事参照)
- ・これまで電動車イス利用者はバスに乗車拒否されることがある。身近な移動手段であるバスに乗れないということは、車いす利用者にとって鬱憤を募らせる事象である。
- ・中々、実現には至らなかったが、今年の6月から条件付き(シールの添付等)ではあるがシニアカーでのバス乗車が可能となった。
- ・障がい者の声や思いが中々、行政に届いていないので、その架け橋になりたい。

3 前項を受けての質疑応答

Q.バリアフリートイレについて、大人のおむつ交換ができる設備はあるのか。

A.

- ・折り畳み式のベッドが設置してあり、大人の利用可。
- ・駅のトイレでは大人のおむつ交換ができる場所は中々ない。その為、駅長室にある夜勤用の部屋のベッドを利用するか、我慢している人がほとんど。
- ・既存の駅内トイレはスペースの確保が困難なため、バリアフリー化も困難。外出時のトイレの確保が困難なため、外出を我慢している人もいる。
- ・ヘルパーは事前にオムツ交換ができる場所がないか、事前に調べていることが多い。

Q.一人暮らしをしている状況で障がい福祉サービスの支給量を増やせない理由は何か。

A.

- ・現在、移動支援と家事援助、身体介護を利用している。
- ・支給量には一定の上限があって、その時間で決まっている。その上限を超える時は市役所に相談している。

Q.移動支援の支給量はいくらなのか。

A.

- ・1か月あたり63時間、支給されている。しかし、よく外出するのでそれでは時間が足りなくなっている。

Q.知人は1か月1000時間くらい支給されている。もちろん、市町村によって時間数の基準が違うと思うが、一人暮らしの場合で、コミュニケーションが取れない方、ALSや筋ジストロフィーの方はそれくらいの時間数を支給できるのか。

もちろん、それだけの時間数が支給されても、契約できるヘルパーがいないという問題もあると思う。

A.

- ・これからも時間数については、市役所に相談して増やしていきたいと思う。

Q.これまでバスに乗車拒否をされたことがあるか。

A.

- ・運転手によって車いすに対する認識がバラバラなため、乗車拒否をされたことがある。
- ・シニアカーでバスに乗れるかどうかまだ聞いたことはない。当事者会に参加した理由は、作業所に通うためシニアカーでの移動が多いが、ラッシュ時の踏切の遮断機は間隔が短く、何度も閉じ込められたことがあったからだ。
シニアカーはスピードが一定ですぐに後退ができない。また、自分はまだ目が見えるから良いが、視覚障がいの方はもっと困っている。
信号機のように遮断機が下りる間隔が分かるような仕組みがあれば助かると思う。
- ・以前、免許の更新で門真市に行ったことがある。障がい者は乗れる車に特別な許可がいるため、地元の警察署では更新できない。
- ・往きは古川橋駅から京阪バスに乗って試験場まで行くことができたが、帰りは乗車拒否された。試験場から古川橋駅までシニアカーで1時間かけて帰り、熱中症になり、入院する事態までになった。あまりに酷い対応だったので大阪府に人権問題として申立てを行い、兵庫の弁護士協会に京阪バスとの協議に取り組んでもらっている。

4 今年度の運営方法の検討・意見交換

- ・今までの取り組みの一つとして、事例集を市のホームページに掲載している。
- ・委員間の交流や協議がしやすいように、今後は会議毎に席替えをしていく。
- ・自発的な発言を行うことで相互理解が早まると思う。
- ・いきなり大きな目標に向かって取り組むより、目先の問題について取り組んでいく。

会議録(要旨)

- ・テーマを決めてから、複数回話し合いを行う。例えば、外見では分かりづらい精神障がいについて、まだまだ社会から理解を得られていないと思うので、テーマにしてはどうか。
- ・当事者会の目的が障がい者が安心して生活できるネットワークづくりや地域の障がい者がどうやったら生きやすくなるのか、合理的配慮の課題整理となっている。これまで障がい者がどのようなことに困っているか体験を話して頂いたので、次は困りごとを分類する段階に入ってはどうか。
(1)何が起きているのか(2)なぜそれが発生するのか(3)どんな解決策があるのか
(4)解決策の中でどれの効果が高いのかの順で検討するのはどうか。

5 まとめ

- ・今後、当事者会がどのように全体会に参入していくか検討していく。
- ・地域の障がい者との交流を行っていく。
- ・障がいの理解・啓発を行っていく。
- ・これまでに会議に挙げた事例や課題についてカテゴリー分けを行っていく。
- ・必要に応じて講師に講演を依頼する。